

事業所名

rubato

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

3 月

11 日

法人（事業所）理念

“rubatoに生きる”＝自分のテンポで生きる ・ “あなたは、そうなのね”＝多様性の尊重 ・ 人によって必要な支援は違う＝合理的配慮

支援方針

障害の社会モデルに基づき、障害は本人ではなく社会の方にあることをベースとして、障害のある社会の方の環境調整を行うことを支援の核とする。
人によって必要な支援は違うので、一人ひとりの困りごとに寄り添って合理的配慮を行う。
本人の自己決定とその尊重を軸として、「する」も「しない」も含めて自分の活動を自分で決める。本人が決めたことに大人は寄り添う。
こどもは5領域の枠を超えてトータルで発達する、という視点で好きなこと、得意なことを基本にできるよう環境設定する。

営業時間

13 時

0 分から

19 時

0 分まで

送迎実施の有無

あり

なし

支 援 内 容

本人支援

健康・生活

自分の好きな事、やりたいことに夢中になれる環境設定を行う → 自分の「納得」をもとに行動する
顔色等の様子から本人の状態を類推する 血流とリンパの流れの促進等 → 足首、ふくらはぎ、鼠蹊部マッサージ等
深い鼻呼吸を促し、自律神経を整える活動 → 息を吹く遊びを通して深い腹式呼吸をする等

運動・感覚

走る、止まる、空間把握、前庭覚への刺激
【粗大運動】公園でのおにごっこ、ブランコ、シーソー、回る椅子での移動、トランポリン、サーキット遊び、バランスボール等
【微細運動】おりがみ、スライム、粘土、キネティックサンド、水遊び等
ヨガのポーズ → 動物のポーズなど楽しめる内容で行う

認知・行動

毎日のおやつ → 100円分を自分で選び、自分の食べたいものを組み合わせる
自分のイメージと空間、五感をリンクさせる → レゴブロック、パズル、粘土、スライム、廃材を使った創作活動等
季節を感じる公園遊び

言語
コミュニケーション

自分が得意な表現方法をさぐる → 言語、筆談、クレーン、スキンシップ、手話等
相手の気持ちを想像する → ともだちと一緒に活動する中でのトラブルを自分たちで解決する等

人間関係
社会性

友だちとの共通の楽しみから生まれる遊び → ごっこ遊びや、その場でアドリブで生まれる遊び等
双方向のコミュニケーション → ケンカなどのトラブルを通して相手の気持ちを知る等
ヨガのペアポーズを通して他者意識、力加減の調整を知る

家族支援

面談や日々の連絡帳、LINEでのやり取りを通して困りごとを共有する。
家族ヨガ、親ヨガの開催。
家族交流イベントの開催。

移行支援

就学・就労の選択肢を提示し、本人にあった進路を共に探る。

地域支援・地域連携

陶芸教室や公園での交流、商店街のイベントへの参加を通して地域と交流する。

職員の質の向上

障害の社会モデル、インクルージョン、合理的配慮等の研修
外部講座への参加等

主な行事等

外出イベント → 電車に乗って大きな公園、動物園、水族館等に外出する
創作イベント → こどもたちから「やりたい!」と提案のあったものを実現する 例) おやつ作り等